

人の縁とは不思議なもので

校 長 武井 正明

2年生の職場体験学習最終日。

去年は巡回するゆとりが全くなかった。今回は可能な限り、事業所の方々に挨拶だけでもと思い、僅かながら回らせていただいた。

行く先々で、普段の学校生活では見られない吉中生の「よそ行きの顔」があった。それでいい。我慢と緊張感は当たり前。それが大人というもの。そして迎えてくださる皆様が、本当に温かくお迎えくださいました。感謝しかありません。きっとこの経験が、今後の人生において、大きくプラスになると確信します。

そして帰校すると、二瓶先生が「事業所の方からお手紙をお預かりしてきましたと」封書を開けると、きれいな文字で綴られた、鮮やかな2枚の便箋が目飛び込んできました。

読んで驚いた。差出人の方の3つ上のお姉さんは、私と坂井輪中の同学年。差出人である妹さんは坂中・明訓の後輩。彼女が今でも交流のあるお友達のお名前（私と小中同学年）も書かれてありました。

「マンモス校だったからわからないかもしれませんね」

いえいえ。ふたりともはっきりと憶えています。妹さんのお友達の彼女とは、小学校低学年で同じクラスでした。可愛くて男子から人気がありました。（俺も実はちょっと好きだった）確か、彼女のお父さんはタクシーの運転手で、西城秀樹を乗せたことがあると思います。

「姉に話をすると『黒縁メガネの野球部の人かな？』との返答でした」

そうです。「黒縁メガネ」…それオレだ。黒縁時代の消去したい自分の顔…。やめてくれ。恥ずかし過ぎる。せめて銀縁で憶えておいてほしかった。でもまだその程度の記憶で良しとするか…。

「校長 vision」を愛読してくださっている方は、おわかりだと思いますが、私の学校時代は、ほぼ最低最悪の黒歴史。本当に性根の腐った、暗黒のひねくれ者だったので、当時の同学年の皆さんには、とてもあわせる顔がないというのが、本当に正直な自分の気持ちなのです。だから、穴がなくても、何個か常に掘って潜っておきたい心境です。

しかし、妹さんが「私の勤務先に吉中生が職業体験に来てくれたので『ご縁』だと思いペンを執らせてもらいました」と、事前にお手紙を準備してくださっていたとは、ありがたい、嬉しい…。もう何度も読み返しています。ほんとに嬉しいわ…。

そして、あらためて人の縁の不思議を感じずにはられません。

今後とも、ご支援よろしくお願いいたします。

